

全国初の自治体間連携特養

エクレシア南伊豆の竣工式が行われました

平成30年3月4日、特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」の竣工式が行われました。この特養は、杉並区と南伊豆町・静岡県が連携して整備したものです。竣工式には、全国初となる自治体間連携による特養整備に関わった多くの関係者や近隣住民などが出席しました。

また、昨日3日には、都市部と地方の行政課題を共に解決し、共存共栄を目指す連携のあり方を全国に発信していくため、東京大学の大森彌名誉教授ほかを招いて、「杉並区・南伊豆町連携会議」を開催しました。

この特養整備構想は、平成23年度末に廃止した全寮制の区立小学校「南伊豆健康学園」の跡地活用から浮上し、前例のない全国初の取組として、静岡県・南伊豆町との3者を中心に、7年余の検討を経て開設に至ったものです。構想当時、杉並区の特養入所待ちは2,000人程に上り、区内には施設建設の用地を入手することが困難な状況にありました。また南伊豆町においても特養や地元経済振興の課題があり、双方の行政課題を共に解決する取組として進めてきたものです。

3月3日午後、南伊豆町役場で、「杉並区・南伊豆町連携会議」を開催しました。会議には、区・町・県関係者のほか大森彌東京大学名誉教授と大杉寛首都大学東京教授が出席。エクレシア南伊豆が、前例のない介護保険の圏域を越えた特養整備として、全国的に注目される事例として、その効果や今後の展望などの意見が披露されました。大森彌名誉教授は、【特養ホームの目指すべきところは、「自宅ではない『在宅』」をどう創り出すか」という点。自宅からの距離が離れているか近くか、ではなく、その方にとって新しい生活の場になり得るかが大切だ。これから実際の運営が始まるが、全国初の取り組みでもあり、満床に向けた今後の入所調整も、ゆっくり丁寧に、入居者に寄り添って進め、新たな特養の形を創り出すことが重要だと思います。】と話しました。

3月4日午前、エクレシア南伊豆では、運営事業者（梓友会）による竣工式が挙行政され、施設の内覧会も行われました。参加者は「木の温もりあふれた広々とした居住空間、そして窓からの景色はみどりと光、風を感じます。南伊豆の豊かな自然の中で利用者の笑顔が目に見えますね。」と話していました。

また、玄関前では、土屋優行静岡県副知事、山口重則静岡県健康福祉部長、川島優幸梓友会理事長、岡部克仁南伊豆町長、田中良杉並区長の5名による共同記者会見を開催。田中区长から、構想から7年余のあゆみについて説明。また、記者からの完成した施設の感想は？との質問に田中区长は、「ゆとりあるゆったりとした施設だと改めて感じた。入居される区民が『入って良かった』と喜んでくれる顔が見たいし、梓友会さんが、そう思ってもらえるようなケアを提供してくれることを確信しています。」と答えました。



【問い合わせ先】

保健福祉部高齢者施設整備担当課 03-3312-2111 内線1181